

## ドイツ日食レポート

O.H(1967/観望)

以下の文章は、99年8月のミュンヘンまでマイレージ航空往復チケット2人分を都合してくれた友人宛の旅行報告メール文です。なお行ったのは私と私の娘（長女）と、私の義兄の3人でした。

残暑お見舞い申し上げます。ここんところ暑いですね。南ドイツの涼しさが恋しいです。といいながらも、エアコン無しの車では日中暑かった。

ミュンヘンには3日の夕刻着きまして、すぐに慣れない左ハンドル車を運転し、どちらへ向かう道か皆目わからず流れに乗って走るのみでした。それでも走りながら徐々に運転の雰囲気に分かりまして、田舎道に入り第一声が“Wo ist Hier? (ホー イスト ヒア・ここどこ?)”で第二声が“Gasthof? (ガストホフ・簡易ホテル)”。答えはさっぱりわからず、見よう見まねで“gerade, rechts, links (ゲラーテ・真っ直ぐ、レヒツ・右、リンクス・左)”の区別を知り “Schreiben Sie bitte! (シュライベン ツー ビッテ・書いてください)”で地図を書いて貰い、やっと泊まれた（たどり着いた）のが19時頃で Dorfен (ドルフエン) という町。ここはミュンヘンの東方40kmぐらいかな。

その翌日はアウトバーンを走り、一気に Augsburg (アウグスブルグ) まで行き、その後ウルム（以後、文字入力の変更がめんどくさいし、スペルに自信がないのでカタカナ表記にします。）からボーデン湖、オーストリアのチロル地方の入り口を通り、ノイシュバンシュタイン城・リンダーホフ城などを見学し、ミュンヘンに帰り、日食に臨んだのですが。。。。。

この間使った言葉は“Zimmer frei? (ツィマー フライ・部屋空いてる?)”と“Morgen (モルゲン・おはよう)”とか“Hallo (ハロー・こんにちは)”などの挨拶くらい。良く泊まれ且つ良く食べられたものだと我ながら感心しています。



〈ボーデン湖〉



〈立ち寄ったレストラン〉

さて日食ですが、前日の10日の宿泊はたかをくくっていたのですが、やっぱり日食の為ミュンヘン近辺の安いところは満杯でして郊外に避難したのですが、それでも難儀しまして、これまた宿泊先を確保できたのが19時頃でミュンヘン北東数十kmの Landshut という町の郊外でした。

当日は曇りがちで時折小雨、弱い前線の通過という印象でしたが、天気図は見えていません。

第1接触1時間ぐらい前から小高い丘の上に陣取り、何人かのドイツ人と一緒に空を見上げていました。上記のような天候の中、欠け始めは見る事が出来ましたが、その後太陽は雲に隠れたり現れたり、やっぱり皆既観望が成功するかどうかは5分5分だなどと思っていました。

第2接触に近づくとつれ、空の雲の動き具合と地上の晴れ間（明るいところ）部分を見ての判断で、

急遽（皆既まで15分くらい前）車で移動を開始し、薄暗くなる中を南へ下がったり、東へ移動したりして、第2接触直前に民家の庭先に車を止め、犬に吠えられながらも、双眼鏡で内部コロナとピンク色のプロミネンスを僅かな時間（10秒ほど）でしたが何とか見ることができました。なお金星が良く見えていたのが印象的でした。

第3接触のダイヤモンドリングは雲の中で全然見えず、皆既終了1分後くらいの細い太陽を見てお終いにし、その後雨の中をミュンヘンに向けて帰りました。

話に聞いていたスリリングな日食カーチェイスは堪能しましたが、やはり不満の残る日食観望でした。とはいえ、旅行自体は楽しく第二目的のビールも十分に美味しく飲むことができました。貴君のおかげです。

なお今頃野暮な話ですが、航空券は良いとしても出国税だか空港利用料とかは貴君が負担したのではないのでしょうか？当然成田で必要になると思っていたのですが、航空券に含まれている由。申し訳なく思っております。

さらに、お土産にと思っていたツァイス双眼鏡はどこにもありませんでした。噂どうりツァイス社はつぶれていたのでしょうか？という訳で、お土産はありません。というか、貴君はしょっちゅう訪独するので、何を買ったらよいか分かりませんでした。心から申し訳なく思っておりますので悪しからずご容赦を。以上



〈ノイシュバンシュタイン城〉